

稲作情報



NO. 5

越後さんとう農業協同組合
電話番号(0258)41-2887

平成27年産米 栽培上の問題点(課題)

平成28年 5月23日

「中干し開始の遅れによる籾数過剰」→「登熟不良と未熟粒混入による品質低下」

品質・収量確保に向け“遅れずに”中干しを開始!

～ 穂肥が施用できる稲姿となるよう、しっかりと生育調節を行いましょう!! ～

✕ 早すぎる中干し → 「茎数不足～籾数不足」による収量低下

✕ 遅すぎる中干し → 「過剰生育(茎数過剰・長草化)」「登熟不良・倒伏による品質低下を助長

品種・ほ場ごとに“生育量(茎数)を確認”して、適期に中干しを開始しよう!

1. 中干し期間の管理

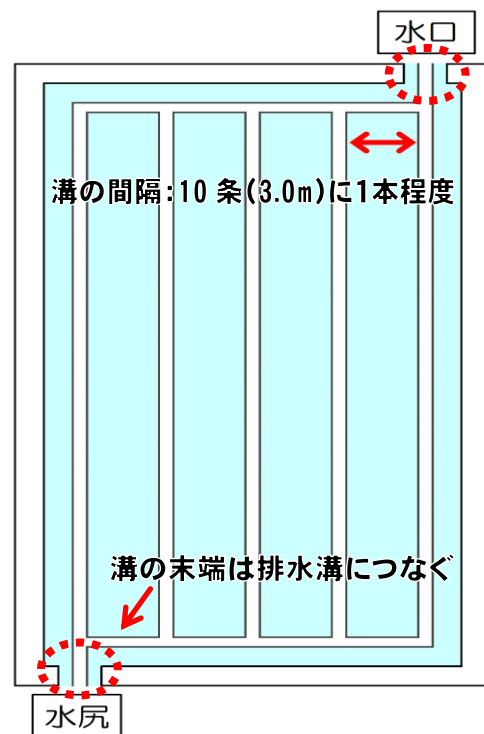
(1) 中干し開始の目安 … 目標茎数(目標穂数の80%程度)を確保したら速やかに!

品種名	コシヒカリ		こしいぶき	ゆきの精	ゆきん子舞	五百万石	こがねもち	わたぼうし	ゆきみのり
栽植密度	50株	60株	60株	60株	60株	60株	60株	60株	60株
目標穂数	360本/m ²	360本/m ²	400本/m ²	370本/m ²	400本/m ²	325本/m ²	370本/m ²	350本/m ²	410本/m ²
開始の目安	草丈	30cm	30cm	30cm	30cm	30cm	28cm	28cm	30cm
	茎数	19本/株	15本/株	17本/株	17本/株	18本/株	14本/株	15本/株	18本/株
	葉数	7.0葉							

※ 中干しの開始目安は、“田植え後1ヶ月”です。(見た目よりも茎数がとれている場合もあります)

※ 生育過剰になりやすい地域・ほ場では、早め(目標穂数の70%程度)の中干しを徹底して下さい。

(2) 溝切り … 中干しの効果を高めるため、全ほ場で「溝切り」を実施しよう!!



【溝切り：施工目標】

- ① 溝切りは全ほ場で実施
- ② 溝の間隔は最低でも10条に1本程度

・ 溝の深さは、10cm以上を確保
・ 各溝の末端は必ず排水溝につなげる

※ 作溝が不十分な場合は、再度溝切りを実施

☆ 中干しの効果

- ① 無効分げつの発生抑制による“適正生育量の確保”
- ② 下位節間の伸長抑制による“倒伏軽減”
- ③ 土壌への酸素供給による“根の健全化”
- ④ 収穫時に機械作業が可能な“地耐力の確保”

☆ 溝切りの効果

- ① 中干し効果の安定
- ② 中干し以降の水管理(異常高温・強風フェーン、長雨等の緊急時の給排水)が容易となる

“必ず”
茎数
チェック!!

(3) 中干し終了の目安 … “小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度”となったら終了!

中干し終了後は、うわ根の発生促進や根の健全化、地耐力の維持に努める必要があります。

中干しは“小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度”になったら終了することを基本とし、地耐力が確保できるようほ場ごとに長さ・強さを調節しましょう。(遅くとも出穂1カ月前までには終了)



強すぎる中干し(大ヒビ)厳禁!

- ① 根の断裂等による幼穂形成期以降の“葉色低下”や高温年の“基部未熟粒増加”
- ② “除草効果の急激な低下”

2. 病虫害・本田雑草防除対策

いもち病の本田粒剤散布は「湛水処理」が必要なので、防除適期をのがさず、中干し開始前までに散布しましょう!

(1) 葉いもち対策

- ① いもち病の発生源となる補植苗を速やかに除去しましょう。
- ② いもち病の発生しやすいほ場(常発地域・基盤整備あと・大豆あと)や品種(わたぼうし等)で、育苗箱処理剤(ツインパディート箱粒剤)による葉いもち防除を実施していない場合は…
⇒ 6月10日頃まで(中干し開始前まで)に予防粒剤による葉いもち防除を徹底しましょう。

資材名	10a使用量	使用時期	備考
ルーチン粒剤	1kg	葉いもちの初発7日前まで(収穫30日前まで)	湛水散布

※ 「ツインパディート箱粒剤」により育苗箱処理をした場合、重複使用不可。(不必要)

- ③ 茎数過剰は、葉いもちの発生を助長します。適期中干しにより過繁茂を防止しましょう。

ポイント

(2) 本田雑草防除対策

- ① “小ヒビ中干し(強すぎる中干しをしない)”と“中干し後の飽水管理”の徹底により土壌水分を維持し、除草効果の急激な低下を防ぎましょう。⇒ 後発雑草対策
- ② 本田内雑草の発生は、“栄養競合による玄米品質の低下”や“斑点米の発生リスクの増加”を招きます。雑草の発生状況や種類に合わせて中後期除草剤による雑草防除を実施して下さい。

種類	資材名	10a使用量	使用時期	備考	
イネ科	クリンチャー	1キロ粒剤	1kg	移植後7日～ノビエ4葉期(収穫30日前まで)	湛水散布
		ジャンボ	20個(1kg)	移植後25日～ノビエ5葉期(収穫30日前まで)	
			30個(1.5kg)	移植後15日～ノビエ3葉期(収穫40日前まで)	
		EW	100mL	移植後25日～ノビエ4葉期(収穫40日前まで)	
広葉	クリンチャーバス ME液剤	1000mL	移植後20日～ノビエ6葉期(収穫30日前まで)	落水散布	
	バサグラン	粒剤	3～4kg		移植後15～50日(収穫60日前まで)
液剤		500～700mL	移植後15～50日(収穫50日前まで)		

※ 雑草の種類や葉齢により使用時期が異なりますので、登録内容を確認してから使用して下さい。

※ クリンチャーバスを使用した場合は、クリンチャー及びバサグランの使用はできません。

※ 契約栽培わたぼうしのほ場で、使用できる中後期除草剤はスケダチA(スケダチ)となります。

～～営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ～～

次回稲作情報：6月中旬頃「生育状況、中干し以降の水管理、中間追肥、カメムシ対策」(予定)